

産婦人科 専門研修プログラム

◆ プログラムについて

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院を基幹施設とし、産婦人科専門医を養成することを目的としたプログラムです。産婦人科全般および周産期、婦人科腫瘍、生殖医療、内視鏡手術、女性のヘルスケアの専門研修が可能であり、豊富な症例の診断・治療を経験することで高度な知識・技能を得ることができます。当院の特徴として、スタッフを産科と婦人科に分けて診療を行っているため、それぞれの領域を集中的に研修し、早く技量を高めることができます。産科と婦人科は一定期間でローテーションするため、技量がかたよることはありません。指導は当院および連携施設に勤務する産婦人科指導医、専門医が行います。研修期間は3年間であり、そのうち2年間は基幹施設である当院で研修し、1年間を連携施設で研修します。連携施設には、静岡赤十字病院、名古屋掖済会病院、豊田厚生病院、公立陶生病院があります。連携施設での研修は上記4病院から希望により選んでいただきますが、地域医療の経験を積むために政令指定都市以外にある施設で1ヶ月以上の研修を行う必要があります。

学会発表や論文作成の指導も受けることができ、本プログラムで産婦人科専門医の受験資格を満たすことができます。（※プログラム内容の詳細は、当院ホームページよりご覧ください。）

◆ 専攻医の処遇

- ・身分：専攻医（常勤嘱託）
- ・給与：3年次 基本給 290,300円＋諸手当（地域手当、医師確保調整手当等）
4年次 基本給 305,800円＋諸手当（地域手当、医師確保調整手当等）
5年次 基本給 320,100円＋諸手当（地域手当、医師確保調整手当等）
- ・他施設で研修する場合の雇用条件は、それぞれの研修施設の給与、社会保障、労働条件による。退職金等は、退職時の施設基準に従う。雇用にかかわる住宅、交通などの条件は、当該研修施設の基準に従う。

◆ 研修コース

1年目	基幹施設（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院）
2年目	基幹施設（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院）
3年目	連携施設

◆ 研修選択プラン（例）

- 1-2年目 基幹施設（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院）
- 3年目（例1） 連携施設（静岡赤十字病院6ヶ月、豊田厚生病院6ヶ月）
- （例2） 連携施設（名古屋掖済会病院6ヶ月、公立陶生病院6ヶ月）



- 当院産婦人科は MFICU を含む産科病棟および婦人科病棟 85 床で構成されます。
- 産婦人科医師 13 名のうち産婦人科指導医 7 名、同専門医 4 名が専攻医の診療指導にあたります。周産期・新生児専門医、婦人科腫瘍専門医、生殖医療専門医、内視鏡技術認定が在籍しており、各専門分野の診療の指導を受けることができます。当直は毎日、産婦人科全体として 2 名が担当しています。
- 周産期領域では、総合周産期母子医療センターとして、愛知県の周産期医療の中心的役割を担っています。年間約 1400 件の分娩があるほか、切迫早産、前期破水、前置胎盤など母体搬送や分娩後出血などの産褥搬送症例が年間約 300 例あり、豊富な症例を経験できます。また、超音波検査による胎児診断・胎児治療にも力を入れています。
- 婦人科腫瘍領域では、愛知県西部地域から年間約 200 例の子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなど新規婦人科がん症例が紹介されています。これらの症例の手術、化学療法、放射線治療を積極的に行っています。また悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術も行っています。
- 婦人科領域の良性疾患に対する診療は、子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍などにおける開腹手術、腹腔鏡手術、薬物治療などの治療を豊富な症例で経験することができます。
- 生殖医療に関しても生殖医療専門医の指導のもと、一般不妊治療から体外受精、顕微授精、受精卵凍結までの経験が可能です。

◆研修実績

新専門医制度

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
専攻医数	2	3	3	2	1	2	2	3	2
専門医試験合格者数	2	3	3	2	1		研修中	研修中	研修中

産婦人科プログラム採用実績（2020 年度：2 名、2021 年度：3 名）

お問合せ先

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 教育研修管理課

TEL：052-481-5111 E-mail：kensyu-jimukyoku@nagoya-1st.jrc.or.jp